Nagoya City University

名古屋市立大学　人文社会学部研究紀要　第17号　2004年11月

同音類義語「かえる」の漢字(変・替・換・代)表記のゆれについての一考察：
新聞コーパスとアンケート調査を基に

日木　満[1]
明関幸江[2]

1．はじめに

日本語には数多くの同音類義語が存在する。『日本語百科大事典』(大修館書店，1988) では、同音類義語を発音が同じ語であって、しかも意味が非常に似ている語であり、通常異なる漢字が用いられる語であると定義している。中でもある程度意味に違いがあると同時に漢字の入れ替えも可能である語の例として「かえる（変える・替える・換える・代える)」が挙げられている。「かえる」の四つの漢字の使い分けに関しては、筆者自身その判断を難しいと感じることが多い。例えば、「水をかえる」と言いたいとき、「水を変える」なのか「水を換える」なのか、あるいは他の漢字「替」か「代」を使うべきなのか判断に悩む。このような状況では辞書などを頼りにするのがひとつの解決法であるが、後の章で述べるように辞書を参照してもその区別については不明瞭であることが多い。そこで、これらの区別について現代の母語話者が実際にどのように使い分けているかを調べることで、「かえる（変える・替える・換える・代える)」の使い分けの実態を明らかにしたいと思う。本稿では、毎日新聞９年間分（1991～1999年）のコーパスデータと、日本人大学生を対象としたアンケート調査を基に分析し、実際の使用にどのような傾向があるのかを検証する。なお、本稿では「ゆれ」を、複数の選択肢から適当なものを選ぶ際、正用誤用の判断が確立しておらず、異なる選択が観察される場合のことを表す。

2．先行研究（辞書・文法書の記述）

「かえる」における四つの漢字の使い分けに関し、辞書、文法書などの記述では、「かえる」の持つ意味の違いに注目し、それぞれの漢字を使い分けている。例えば、『日本語大辞典』(講談社，1989)、『逆引き同類語辞典』(東京堂出版，1993) では、それぞれの意味の違いを定義し、漢字の使い分けを記述している。まず、「物事の状態や位置をそれまでと違ったものにする」という意味に置いては「変える」が使われ、「古いものを新しいものにとりかえる」という意味においては「替える」、「今までのものを除いて別のものを使う」という意味においては「換える」、「他のものに代わりをさせる」の意味においては「代える」が使われると記述されている。また、『学研国語大辞典』(学習研究社，1980) や『大辞林　第二版』(三省堂，1995)、『大辞泉』(小

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

学館，1995）などでは、「あるものを前と違った状態にする」という意味で使用する「変える」と、「あるもの除いて別のものをその位置、地位に置く」という意味での「替える、換える、代える」という二つの大きな分類のみが行われ、「替、換、代」についての区別については説明のない場合が多い。特に「換、替」の二つに関しては両者とも使用可能な場合があるとの記述も見られる。これらの辞書、類義語辞典などの記述をまとめると以下のようになる。

（1）物事の状態、性質、内容などをこれまでとは違った状態にするという意味では、「変える」を用いる。

例：顔色を変える（『大辞泉』・『大辞林』）

生き方を変える（『類語大辞典』）

価値を変える（『学研国語大辞典』）

（2）あるものを除き、別のものをかわりにもってくるという意味では、「換える」「替える」「代える」のいずれかを用いる。

① 古いものを除き、新しいものにする場合、「替える」が多く用いられるが、「換える」が用いられることもある。

例：畳を替える（換える）（『大辞泉』）

服を替えた（『日本語基本動詞用法辞典』）

担当者を替えた（『日本語基本動詞用法辞典』）

② あるものを与えて別のものを得る場合、「換える」が多く用いられる。

例：古本を金に換える（『類語大辞典』）

包帯を換える（『日本語大辞典』）

水を換える（『学研国語大辞典』）

③ あるものに他のものと同じ役割をさせる場合、「代える」が多く用いられる。

例：担当者を代える（『日本語大辞典』）

電球を代える（『類義語使い分け辞典』）

定期試験をレポートに代える（『日本語基本動詞用法辞典』）

このように、先行研究では、それぞれの使い分けについての記述は見られるが、その定義自体に疑問が残る。例えば、（2）の「あるものを別のものにかえる」というのは（1）の物事の状態をこれまでと違った状態にする」という意味の中に含まれるのではないかとも考えられ、具体的な文脈における漢字選択を明確に判断することができないのではないかと思われる。また、辞書の用例を見てみると、同じ文脈でも漢字表記にゆれが見られるものもある。複数の辞書間で同じ目的語をとり、異なる複数の漢字が用例の中に用いられているものは表１のようである。

表１から、同じ辞書内、または異なる複数の辞書間に置いて、同一目的語であっても漢字選択

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

にゆれがあることが分かる。これは、「かえる」の漢字選択に迷った場合、参照する辞書によってその答えに違いが出るということにもなりうる。定義、用例ともに、辞書の記述だけでは明確な判断基準を得ることが難しい。このような、判断にゆれのある表現は使用の傾向を示すことによって文法性判断が可能となると言われている（杉村：2001）。また、赤野（2003）は、コーパスの言語分析により、類義語の意味分析はより精緻なものとなり、語と語のコロケーションを通してそれぞれの語の持つ特徴が明らかになると述べている。そこで、本稿ではコーパスデータとアンケートデータを基に実際の母語話者の使用傾向を調べ、「かえる」の漢字の使い分けについて目的語との共起関係を中心に考察する。

表１：辞書間の用例における漢字表記のゆれ

	文脈「（名詞）をかえる」	漢字	出典
1	（池・水槽の）水をかえた	替	『大辞林』『学研国語大辞典』
		換	『日本語基本動詞用法辞典』『学研国語大辞典』『例解新国語辞典』
2	一万円札を（千円札に）かえる	替	『角川類語新辞典』
		換	『日本語基本動詞用法辞典』
3	円を（ドルに）かえる	替	『大辞泉』『類語大辞典』
		換	『大辞泉』『類語大辞典』『日本語基本動詞用法辞典』
4	車をかえる	変	『類義と使い分け辞典』
		替	『日本語基本動詞用法辞典』
		代	『類義と使い分け辞典』
5	手をかえ品をかえ	変	『日本語基本動詞用法辞典』『大辞林』
		替	『大辞泉』
		代	『新明解国語辞典』
6	席をかえる	変	『日本語大辞典』『日本語基本動詞用法辞典』『現代国語例解辞典』
		替	『日本語基本動詞用法辞典』
7	場所をかえる	変	『日本語本動詞用法辞典』『学研国語大辞典』『類語大辞典』
		換	『日本語基本動詞用法辞典』
8	包帯をかえる	替	『日本語大辞典』『日本語基本動詞用法辞典』『学研国語大辞典』
		換	『学研国語大辞典』
9	担当者をかえる	替	『日本語基本動詞用法辞典』
		代	『日本語大辞典』

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

3．調査方法

本稿では「かえる」の四つの漢字「変」「替」「換」「代」を日本人母語話者が実際にどのように使い分けているのかを明らかにするため、コーパスデータ、アンケート調査を基に考察を行った。まず、毎日新聞のデータを含むウェブ上のコーパス（『茶漉』[3]）を用い、四つの漢字の使用頻度、使用状況を調べる。次に、日本人大学生50名への四つの漢字の使い分けに関するアンケート調査を行い、その結果から、日本語母語話者の「かえる（変える・替える・換える・代える）」の使用傾向について考察する。

4．コーパスデータ

4.1.　漢字使用頻度

まず、毎日新聞９年間分(1991年～1999年)のコーパスにおいて、「(名詞）をかえる（全活用形)」という文型使用例を検索し、「変・替・換・代」それぞれの使用頻度を調べた。検索の際、「かえる」の全活用形を選択することにより、「かえ」「かえて」「かえた」などすべての活用形を含めたデータを得ることができる。その結果、総件数は13, 269件で、各漢字のtoken別、type別の頻度は表２の通りである。また、それぞれの頻度をパーセント表示したものが図１，２である。表２、図１，２で示すように、「変える」の使用がtokenにおいてはほぼ95％、typeにおいては80％と、圧倒的大多数を占め、「替える・換える・代える」の三つの漢字に関しては「変える」に比べ、非常に低い頻度で使用されているといえる。使用頻度の割合からは、母語話者は「変える」をあらゆる文脈において使用しているかのようにも見受けられる。そこで、各漢字が使用されている文脈を調べ、「変える」がすべての用法をカバーしているのか、それともそれぞれに適当な用法があり、母語話者がそれらを使い分けているのかについて検証する。

表２：「かえる」の漢字使用頻度

漢字	Token数	Type数
変える	12, 519	1, 388
替える	385	162
代える	242	118
換える	123	53
総件数	13, 269	1, 721

4.2.　各漢字と共起する名詞

次に、それぞれ４つの「かえる」に関して、どのような名詞との共起頻度が高いかを調べ、それぞれの持つ特徴を検証した。本研究では、「かえる（変える・替える・換える・代える)」と共起するヲ格名詞、頻度、共起頻度の尺度となるt-scoreを基にそれぞれの動詞との共起関係を考察する。その際、コロケーション出力のt-score敷居値は2. 0を用いた。また、頻度が４回以下のも

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

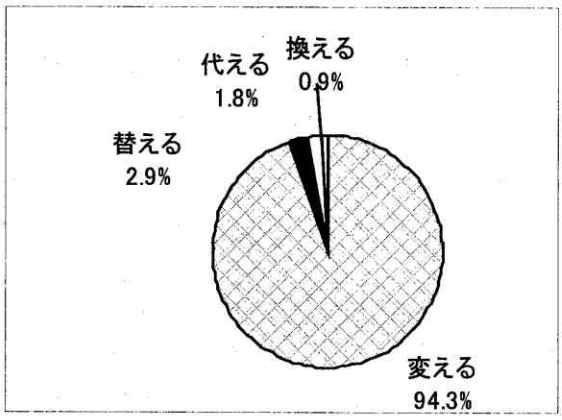

図１：「かえる」の漢字使用頻度割合（Token）

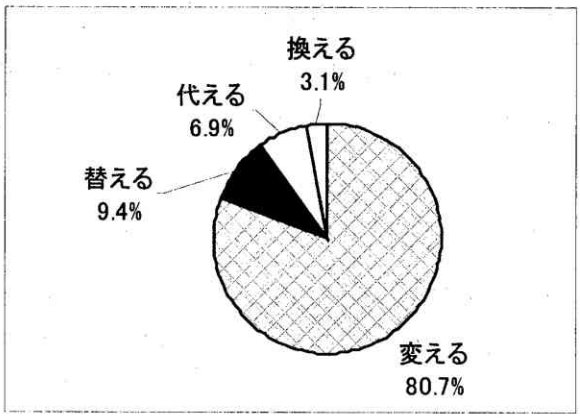

図２：「かえる」の漢字使用頻度割合（Type）

のは偶然の可能性が高いため（杉浦，2000）、今回の研究では頻度５回以上のものを中心に検証する。それぞれの漢字において共起頻度が高かった名詞の上位10個をあげ、その特長について考察する。

4.2.1. 「変える」と共起する名詞

「変える」と多く共起する名詞（表３参照）の特徴としては、先行研究の記述にあるように、「物事の状態、性質などが変化する」ものであると考えられる。先行研究では、抽象名詞、物質名詞などの区別はなかったが、表３の名詞を見る限り、すべて物事の様態を表す抽象名詞であり、物質を表すものは見られなかった。これらの名詞との共起関係はt-scoreの値からも非常に高いと考えられる。他の漢字との共起関係を見ても、これらの名詞との結びつきは「変」が圧倒的に強いことが分かる。よって、「変える」は、抽象名詞と共起する頻度が高いと考えられる。

表３：「変える」と共起頻度の高い名詞（全用例12,519）

頻度順位	名詞	頻度	t-score	他の漢字との共起		
				替	換	代
1	流れ	473	21.593	0	0	0
2	名(名前)	445	13.680	5	0	0
3	姿勢	345	18.292	0	0	0
4	形	322	17.653	0	0	0
5	姿	320	17.607	0	0	0
6	方針	237	14.741	0	0	0
7	政治	227	13.944	0	0	0
8	向き(方向)	222	11.084	0	1	0
9	態度	211	14.320	0	0	0
10	意識	197	13.776	0	0	0

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

4.2.2.「替える」と共起する名詞

「替える」と共起する名詞には、表４に示したように「おしめ（おむつ）」「下着」などの身につけるものが特徴として多く見られる。先行研究の記述にあるように「古いものを除き、新しいものにする」という意味で「替える」と共起する名詞も見られることが分かる。例えば、「おしめ」「水」「下着」などは、「古いおしめ、水、下着」を取り除き、新しいものを用いるという状況として説明可能であろう。それに加え、これらの名詞は「変える」と共起する名詞と違い、物質的なものであることが分かる。また、上の表以外にも、「上着、制服、ネクタイ、帽子、ズボン、靴」などと共起しており、「身につけるもの」と共起する頻度は81/385（21%）を占める。このことから、母語話者は「(身につけるもの）をかえる」という状況では「替える」を使う傾向が強いのかもしれない。さらに推測すると、衣装と「替える」との高い共起関係の背後には、「着替える」という表現の影響もあるのかもしれない。また、二番目に共起頻度の高かった「手・品」であるが、これらは「手を替え、品を替え」という表現の使用によるものである。「手をかえ、品をかえ」に関しては、先行研究では「変・替・代」の三つの例が記述されていたが、コーパスデータからは「替える」との共起が高く（t＝5.869，t＝5.898)、母語話者の多くは「手を替え、品を替え」を用いる傾向が高いということが分かった。この表現においては「変」との共起も多く見られたのだが、t-scoreを見ると、「手」＋「変」ではt＝2.736、「品」＋「変」ではt＝3.562であり、やはり「替」との共起関係の方がより強いと言える。また、t-scoreの値（3.000～2.214）は「変」の場合（21.593～13.776）と比べるとかなり低くなっており、「替える」とこれらの名詞との共起関係は「変える」と表３にあげた名詞との共起関係よりも低いものであると考えられる。

表４：「替える」と共起頻度の高い名詞（全用例385）

頻度順位	名詞	頻度	t-score	他の漢字との共起		
				変	換	代
1	おしめ(おむつ)	38	3.000	0	21	3
2	手	35	5.869	33	1	4
3	品	35	5.898	23	1	3
4	水	23	4.768	4	7	0
5	チャンネル	11	3.312	33	0	0
6	下着	8	2.827	1	1	0
7	衣装	8	2.826	11	0	0
8	表紙	6	2.449	4	0	0
9	看板	5	2.231	15	0	0
10	場所	5	2.214	90	0	2

4.2.3.「換える」と共起する名詞

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

「換える」と共起する名詞（表５参照）に関しては、先行研究で述べられている「あるものを与えて別のものを得る」または「替える」と同様に用いられる「古いものを除いて新しいものにする」状況で使用されていると考えられ、「おしめ」「水」に関しては「替える」との共起関係も強く、母語話者の間では「替える」と「換える」を同等に使用している傾向があるのかもしれない。その他の「換える」と共起する名詞の特徴としては、「言葉」との共起頻度が高いということが挙げられる（t＝5.281）。「言葉」に関しては「変える」との共起頻度も高い（t＝3.627）が、t-scoreは「言葉」＋「換える」の方が高く、「言葉、言い方」など言語表現に関するものとの共起が他と比べて高いということは注目すべき点である。これらの表現との共起は「言い換える」「換言する」という表現の影響もあると考えられるであろう。しかし、全体的に見ると、t-scoreの値（5.281～2.235）も「変」の場合（21.593～13.776）と比べると低く、「変」と名詞との関係より共起関係はあまり強くないと考えられる。また、「換える」の使用頻度からもわかるように、この漢字を使用する頻度は非常に低く、５回以上の頻度で共起した名詞も６つしかない。「換える」と共起頻度の高い名詞でも、他の漢字との共起も多く見られる場合があり、ゆれが観察される。母語話者の間には「換える」をどういう状況で使うべきなのかということに対する判断基準があまり明確ではないのではないのかもしれない。

表５：「換える」と共起頻度の高い名詞（全用例123）

頻度順位	名詞	頻度	t-score	他の漢字との共起		
				変	替	代
1	言葉	28	5.281	25	0	1
2	おむつ(おしめ)	21	3.873	0	38	3
3	水	7	2.631	4	23	0
4	言い方	6	2.449	14	1	0
5	角	5	2.234	0	0	0
6	配置	5	2.235	10	0	1

4.2.4. 「代える」と共起する名詞

「代える」と共起頻度の高い名詞（表６参照）を見てみると、「代」が使われるのは、先行研究にあるように「あるものに他のものと同じ役割をさせる場合」であると考えられる。それに加え、これらの名詞の特徴は、「役割」を持つもの、特に人物に関わる名詞であることが分かる。表６のほとんどの名詞において、他の漢字との共起は非常に少ない。この特徴は他の漢字との共起関係では見られなかったもので、「役割をもった人物」あるいは「人に関わるもの」を表す名詞との共起において、母語話者は「代える」を用いる傾向が非常に高いといえる。これらは「代」という漢字自体に「人」が含まれていること、「代理」「代行」「交代」などの人の動きを表す表現の存在などの影響を受けているとも考えられる。「替える」「換える」と同様、t-scoreは

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

「変える」の場合より比較的低い値を示しているが、「人を表す名詞」との共起においては他の漢字に比べ高い頻度であると言える。特に、具体的な個人を指しうる名詞の場合は、「代える」と共起する頻度が高く、ゆれが少ない。

表６：「代える」と共起頻度の高い名詞（全用例242）

頻度順位	名詞	頻度	t-score	他の漢字との共起		
				変	替	換
1	首相	14	3.639	1	1	0
2	者	12	3.163	0	0	0
3	監督	9	2.950	0	0	0
4	投手	9	2.977	0	0	0
5	メンバー	8	2.810	10	2	0
6	人	8	2.319	22	3	0
7	政権	8	2.791	5	0	0
8	～さん	6	2.226	6	0	0
9	選手	6	2.401	1	0	0
10	トップ・担任・長・党首	5	2.235～2.131	0	0	0

このように、それぞれの漢字によって共起頻度の高い名詞に違いがあることが分かった。各漢字と共起する名詞の特徴をまとめると、「変える」は抽象名詞との共起関係が非常に強く、「替える」は「身につけるもの」との共起関係が強く、「換える」は言語表現に関するものとの共起関係が強いが、「替える」と同等に用いられることも多く、使用にゆれが見られることが多い。また「代える」は「人に関わるもの」との共起関係が非常に強いといえる。

4.3.　複数の漢字と共起した名詞

これまでは、各漢字ごとに分析を進めてきたが、以下では同じ名詞と共起する漢字で、特にそれぞれの使い分けを明確にする上で興味深いものをいくつかあげて考察を加える。表７に示したように、同じ名詞と共起する漢字が複数見られたものをいくつかのグループに分けることができる。

グループ１：「変」「替」「換」「代」と共起する名詞

四つの漢字と共起する名詞は「手をかえ、品をかえ」であるが、この表現は前に述べたように、「替える」との結びつきが強いものである。しかし、「変える」との共起頻度も高く、その理由としては「手」や「品」を手段、方法という抽象名詞として考え、抽象名詞と共起関係の強い「変える」を使用した頻度が高くなったのではないかということが考えられる。

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

表７：同じ名詞と複数の漢字が共起するケース

グループ	名詞	共起する漢字			
1	手をかえ　品をかえ	変	替	換	代
		33	35	1	4
2	人をかえる	変	替	換	代
		23	3	0	8
3	水をかえる	変	替	換	代
		4	23	7	0
4	おむつをかえる	変	替	換	代
		0	38	21	3
5	政権をかえる	変	替	換	代
		5	0	0	8
6	言葉をかえる	変	替	換	代
		25	0	28	0
7	チャンネルをかえる	変	替	換	代
		33	11	0	0

グループ２：「変」「替」「代」と共起する名詞

次の「人をかえる」は「変」「替」「代」の三つの漢字と共起している。ぞれぞれの漢字と共起する名詞の特徴を考えると、どのように「人をかえる」のかという点で、捉え方が違うのではないかと考える。まず、「代」は「役割をもった人」をかえるということに注目しており、「変」では態度、考え方など抽象的なことを含んだ意味においての「人」をかえるということに注目しており、「替」は「古いもの」を新しくするということに注目しているのではないかと考えられる。

グループ３：「変」「替」「換」と共起する名詞

「変」「替」「換」と共起する「水をかえる」では、「替」「換」を使うことにより、ひとつの物質としての「水」を新しいものに変えるという状況が考えられ、その場合これらの二つの漢字選択による違いはほとんどなく、同等に使われると考えられる。また、「変」を用いると、水のもつ抽象的な意味である「水質」などの変化と捉えることが可能であろう。

グループ４：「替」「換」「代」と共起する名詞

「おむつをかえる」においては「替」「換」「代」の三つと共起している。これらの三つの「かえる」は「古いもの」あるいは「役割をもったもの」を新しいものにかえるという状況で使われ、「おむつ」を「ある役割をもった古いもの」と捉えることで、三つ漢字との共起が可能となるのではないかと考えられる。このような状況ではこれらの三つの漢字の間で選択にゆれがある。

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

グループ５：「変」「代」と共起する名詞

「政権をかえる」では、「変」「代」の二つがほぼ同じ頻度で使われている。これらの名詞は「人物が関わるもの」であり、また同時に「内部の状態、方針」などの抽象的な意味も含んでいる。そのため、「人物が関わるもの」としての「代」、抽象名詞としての「変」との共起が見られたのではないかと考えられる。このように、名詞自体が複数の意味合いを持っているとき、その捉え方によって共起する漢字にゆれが出るのではないだろうか。

グループ６：「変」「換」と共起する名詞

「言葉をかえる」では「変」と「換」との共起がともに多く見られた。「換」を使用することにより、「古い言葉」を「新しい言葉」にかえるという「言葉」をあるひとつのものとして捉えているのではないかと考えられる。また、「言い換え、換言」という表現の影響を受け、「替」よりも「換」との結びつきが強いと考えられる。それに比べ、「変」を使うことで、ある「言葉」自体の様態とでもいえる「表現方法」という意味で「言葉をかえる」と捉えているのではないかと考えられる。

グループ７：「変」「替」と共起する名詞

「変」「替」と共起する名詞には「チャンネル」「部屋」「仕事」「化粧」などであり、これらの場合、様態を表す抽象名詞としての意味と具体的な物質としての意味が考えられるのではないかと考える。例えば「チャンネル」によって「テレビ番組の内容」を表すこともでき、また「５チャンネルを８チャンネルにかえる」という具体的なものを表すことも可能である。「部屋」「仕事」「化粧」に関しても、それらの内容、様態を表すときの抽象名詞と、ひとつのものとして捉えるときの名詞としての解釈が可能である。このような場合には、捉え方の違いはあるが、「変」「替」との間で選択にゆれがあるのではないかと考えられる。

このように、名詞によっては複数の漢字と共起する同じ目的語をとっても複数の漢字が用いられ、漢字選択にゆれが見られることが分かった。また、それらのゆれにはそれぞれの漢字と共起する名詞の特徴を受けてのゆれではないかと思われる。このような、コーパスデータにおいて、漢字使用にゆれが見られたものは、日本人大学生も同様に意識しているものなのだろうか。そこで、次に、日本人大学生50名へのアンケート調査を行い、コーパスデータから得られた傾向と違いがあるのか、どの名詞のときどの漢字を使う傾向があるのかということを中心に検証し、使用の体系性とゆれについて考察する。

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

4．日本人大学生へのアンケート調査

日本人大学生の「かえる」の漢字の使い分けについての意識調査を行うために、前述の毎日新聞データの中から、「(名詞) を変える」「(名詞) を替える」「(名詞) を換える」「(名詞) を代える」の使用例を四つずつ任意に抜き出し、問題の漢字を平仮名にして、四つの漢字のうちどの漢字がもっとも適当と思うかを問うアンケートを作成し、日本人大学生50名に実施した[4]。

使用したアンケートは以下のとおりである。

いろいろな「かえる」の漢字による分節

以下に、いろいろな「かえる」を含む表現があります。もっとも適当と思う漢字に○をつけて下さい。

1．チャンネルをかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
2．役者をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
3．部署をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
4．イメージをかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
5．おむつをかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
6．仕事をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
7．考え方をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
8．形をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
9．水をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
10．内閣をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
11．打順をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
12．進路をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
13．投手をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
14．化粧をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
15．政権をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）
16．言葉をかえる　（ 代える ・ 換える ・ 替える ・ 変える ）

本稿では、アンケート作成のために毎日新聞データから任意に抽出した16文を「基準文」と呼び、そこで用いられている「かえる」の漢字を「基準漢字」と呼ぶことにする。しかし、ここでの基準漢字は、あくまでも、たまたま抽出した文の中で使用されていた漢字であり、その漢字が正用で、他は誤用という意味ではない[5]。表８は基準文を基準漢字ごとにまとめたものである。

表８：基準文（毎日新聞データから任意に抽出した16文）

基準漢字	変	替	換	代
基準文	・イメージを変える ・考え方を変える ・形を変える ・進路を変える	・チャンネルを替える ・仕事を替える ・打順を替える ・化粧を替える	・部署を換える ・おむつを換える ・水を換える ・言葉を換える	・役者を代える ・内閣を代える ・投手を代える ・政権を代える

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

表９は、アンケート結果を、一致率の高い順に並べて提示したものである。

表９：アンケート結果

番号	表現	漢字	一致率	1.代	2.換	3.替	4.変	計	無回答
8	形を変える	4.変	100.0%	0	0	0	50	50	0
7	考え方を変える	4.変	98.0%	0	0	1	49	50	0
4	イメージを変える	4.変	94.0%	0	3	0	47	50	0
12	進路を変える	4.変	92.0%	0	3	1	46	50	0
2	役者を代える	1.代	84.0%	42	1	7	0	50	0
13	投手を代える	1.代	84.0%	42	2	5	1	50	0
9	水を換える	2.換	62.0%	5	31	13	1	50	0
15	政権を代える	1.代	60.0%	30	3	12	5	50	0
16	言葉を換える	2.換	52.0%	6	26	6	12	50	0
5	おむつを換える	2.換	46.0%	5	23	22	0	50	0
10	内閣を代える	1.代	40.8%	20	3	8	18	49	1
11	打順を替える	3.替	40.8%	16	5	20	8	49	1
1	チャンネルを替える	3.替	34.7%	1	8	17	23	49	1
6	仕事を替える	3.替	16.0%	5	2	8	35	50	0
3	部署を換える	2.換	14.0%	6	7	14	23	50	0
14	化粧を替える	3.替	14.0%	1	7	7	35	50	0
			計	179	124	141	353	797	
			%	22.5%	15.6%	17.7%	44.3%	100.0%	

まず、これらの表現において、全体的にどの漢字がよく使われたかを調べた。その結果、コーパスデータ同様「変える」の使用が一番多く、全体の44.3%（353/797）を占めていた。次に使用頻度が高かったのは「代える」で22.5%、続いて「替える」（17.7%）、「換える」（15.6%）であった。使用頻度の順位に関して、「変える」が一番多く、「換える」が一番少ないという点はコーパスデータと共通して見られた。

また、どのぐらいの学生がそれぞれの表現について基準漢字と同じ回答をしたかという一致率を調べたところ、「イメージをかえる」「考え方をかえる」「形をかえる」「進路をかえる」の四つの表現に関して、95%以上の一致率で「変える」を選択していた。「役者をかえる」「投手をかえる」の二つの表現ではともに一致率84%で「代える」を選択していた。このことからこれらの表現に置いて、日本人大学生の判断はほぼ一致していると言えるであろう。「変える」が高い確率で使われるのは、コーパスデータ同様、抽象名詞が使われている状況であり、「代える」が高い確率で使われるのは、「人＋かえる」のときであると考えられる。これらは日本語母語話者の体系的な「変える」または「代える」の使用傾向であると言えるかもしれない。それ以外の名詞については、表９に示した順で基準漢字とは異なる漢字を選ぶ率が高くなっていた。

漢字選択のゆれが顕著であったのは、「チャンネルをかえる」「おむつをかえる」「内閣をかえる」「打順をかえる」「言葉をかえる」であった。「チャンネルをかえる」では、「変」と「替」が

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

ともに多く選択されており、「おむつをかえる」では「替」と「換」がともに多く選択されている。これらの表現は二つの漢字間における選択のゆれが見られたものである。それらに加え、「内閣をかえる」では「代」と「変」が多く選択されているが、「替」や「換」の選択もみられ、四つの漢字選択の間にゆれがあると言える。「打順をかえる」では、「代」と「替」の選択が比較的多いが、「変」「換」の選択もみられ、この場合も四つの漢字選択の間でゆれがあると言える。また、「言葉をかえる」では「換」と「変」の選択が比較的多いが、「代」と「替」の選択もあり、これも四つの漢字選択にゆれがあると言える。これらの表現における漢字選択のゆれは、コーパスデータで見られたゆれとほぼ一致するものである。このような表現においては、母語話者の「かえる（変える・替える・換える・代える）」選択にゆれがあるということがわかった。これらの表現はコーパスデータにおける漢字選択のゆれと同様に、各漢字と共起する名詞の特徴を共有するために起きたゆれではないかと考えられる。

5．結論

今回の研究では、「かえる」における四つの漢字の使い分けに関して、二種類のデータを用い、実際の母語話者の使用傾向について検証した。その結果、コーパスの使用頻度分析から「変える」の使用がtokenから見てもtypeから見ても圧倒的に多く、他の三つの漢字の使用割合は非常に少ないことが分かった。頻度分析からは、一見「変える」ですべての状況をカバーすることが可能なようにも思えるが、コーパス、日本人大学生の四つの漢字の使い分けにはある特徴と傾向が見られることが分かった。特に、抽象名詞と共起関係が強い漢字は「変える」であり、「人物を表す名詞」と「代える」とを共起させる傾向が高いことが母語話者の「かえる」の漢字使用において体系化されたものであると思われる。しかし、その他の名詞との共起に置いては母語話者間で、漢字の選択、使用にゆれがあると考えられる。特に、物質を「古いもの」から「新しいもの」にかえるという状況では「替える」「換える」との共起が多く見られ、その選択にはゆれが見られることが分かった。その他にも、捉え方によって抽象名詞にも具体名詞にもなるもの、またはそれぞれの漢字と共起する名詞の特徴を共有する名詞に関しては漢字の選択にゆれがみられた。本研究のデータ分析から、先行研究で複数の漢字が使われている文脈について、実際の使用にゆれがあるために統一した表記が見られなかったのではないかと推測することができる。

これらの結果から、同音類義語に関する母語話者の使用傾向を重視した記述を含む辞書などの充実が必要なのではないかと考えられる。また、日本語教育においても、使用傾向と典型的な使用例、ゆれがある用例などを提示することが、母語話者の使用状況に即した日本語習得において重要なのではないかと考える。

また、本研究では「かえる（変える・換える・替える・代える）」の使用に関して、目的語との共起関係を中心に考察を行ったが、同文脈における漢字選択の違いによる意味の違い、漢字本

NII-Electronic Library Service

Nagoya City University

来の持つ意味の違いなどに関しては言及できなかった。今後は、それらの意味の違いにも注目して検証する必要があると考える。

---

[1] 名古屋市立大学人間文化研究科

[2] Purdue University大学院生（School of Liberal Arts, Department of Foreign Languages and Literatures）；2005年８月にMA Program in Japanese（Second Language Acquisition and Pedagogy）修了

[3] 『茶漉』とは、Purdue大学のウェブサイト上のコーパスデータで、キーワード検索、コロケーション検索などが可能なシステムである。http://tell.fll.purdue.edu/chakoshi/

[4] 被験者は名古屋市立大学人文社会学部専門科目「言語と文化」（日木担当）の受講者で、さまざまな分節を考察する授業の一環としてアンケートを実施したものである。受講者には留学生もいたが、本稿の分析の目的が日本人母国語話者の判断分析であるため、留学生のデータは本研究のデータ分析の対象からははずした。

[5] 事実、毎日新聞コーパスの中には、同じ表現でも、異なる漢字が用いられている文も存在する。（例：「チャンネルを変える」「おむつを替える」）

参考文献

赤野一郎（2003）コーパスと語彙『英語コーパス研究』第10号：149-161.

庵功雄（2002）書きことばの研究『言語研究の方法—言語学・日本語学・日本語教育学に携わる人のために』(pp. 63-72). くろしお出版

梅棹忠夫、金田一春彦、阪倉篤義、日野原重明編（1989）『日本語大辞典』第二版　講談社

大野晋、浜西正人編（1981）『角川類語新辞典』角川書店

金田一春彦、池田弥三郎編（1980）『学研国語大辞典(机上版)』学習研究社

金田一春彦、林大、柴田武編（1988）『日本語百科大事典』大修館書店

見坊豪紀、金田一春彦、柴田武、山田忠雄、金田一京助（1986）『新明解国語辞典』第三版　三省堂

小泉保、船城道雄、本田晶治、仁田義雄、塚本秀樹編（1989）『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店

柴田武、山田進編（2002）『類語大辞典』講談社

杉浦正利（2000）英語学習者コーパスと母語話者コーパスにおける相互情報量を用いた共起関係の比較分析『名古屋大学におけるインターネット時代に適応した英語教育の環境整備（平成11年度名古屋大学教育研究改革・改善プロジェクト報告書』名古屋大学言語文化部

田忠魁、泉原省二、金相順編（1998）『類義語使い分け辞典』研究社出版

日本国語大辞典第二版編集委員会、小学館国語辞典編集部（2001）『日本国語大辞典』第二版　小学館

浜西正人編（1993）『逆引き同類語辞典』東京堂出版

林巨樹（1985）『現代国語例解辞典』小学館

林巨樹（2001）『現代国語例解辞典』第三版　小学館

林四郎、野元菊雄、南不二男編（1984）『例解新国語辞典』三省堂

深谷輝彦（2003）コーパスと文法『英語コーパス研究』第10号：163-175.

藤原与一、磯貝英夫、室山敏昭編（1985）『表現類語辞典』東京堂出版

松村明編（1995）『大辞泉』小学館

松村明編（1995）『大辞林』第二版　三省堂

森田良行（1988）『基礎日本語辞典』角川書店

NII-Electronic Library Service